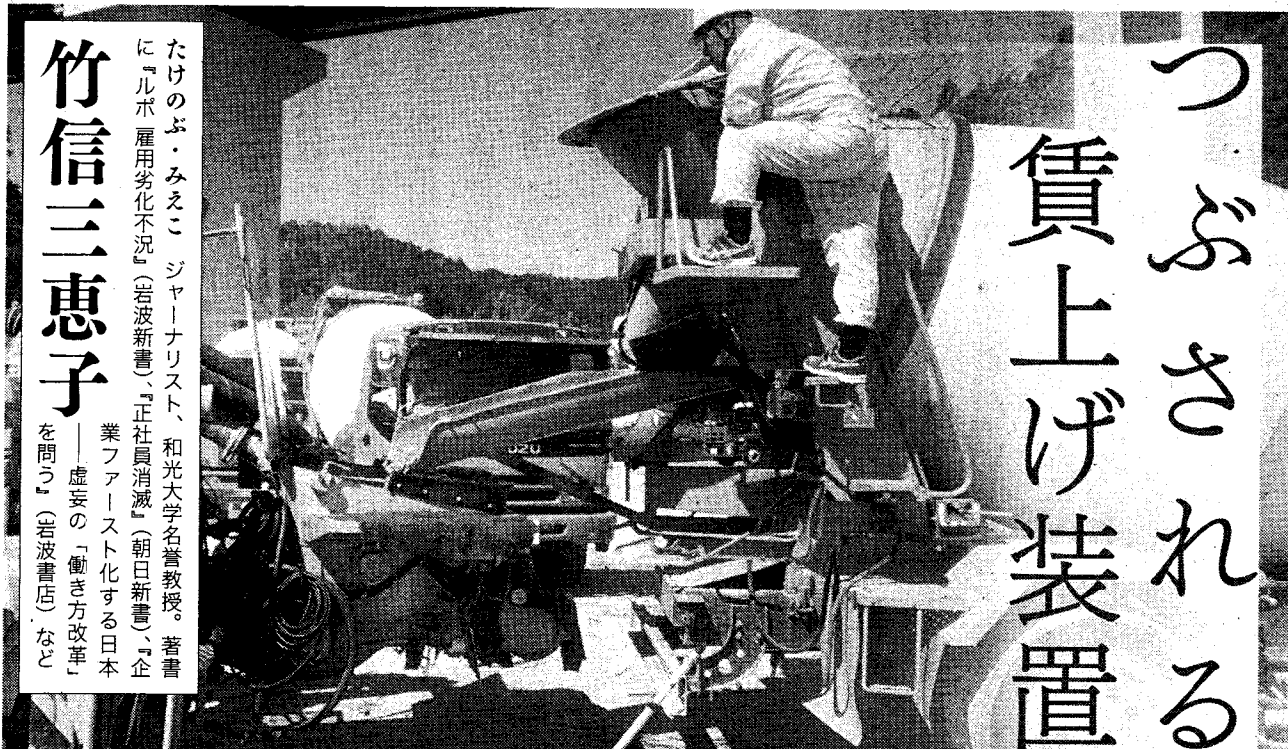


# ルポ 労組破壊

——「関西生コン事件」とは何か(上)

つぶされる  
賃上げ装置



竹信三恵子

たけのぶ・みえこ ジャーナリスト、和光大学名誉教授。著書に『ルポ雇用劣化不況』(岩波新書)、『正社員消滅』(朝日新書)、『企業ファースト化する日本——虚妄の「働き方改革」を問う』(岩波書店)など

運んできた生コンを建設現場で圧送車に流し込んでいる運転手。  
生コンはプラントでミキサー車後部のじょうご型のホッパーから太鼓型のドラム内に落とし込まれる(2019年10月、近畿地区の建設現場で。筆者撮影)

世界 SEKAI 2020.2

「関西生コン事件」は、近畿地区の生コン(生コンクリート)業界の労働組合員らが、ストライキを機に一年以上にわたって断続的に、大量に逮捕・起訴され続け、中心メンバーの勾留も五〇〇日近くに達している異例の事件だ。労働・人権関係の弁護士らが「労働事件としては三池争議や国労事件に匹敵する波及度」と懸念を表明し、労働法学会有志から、労働三権を保障した憲法二八条の無視、との批判声明も出る一方で、報道はほとんどなく、奇妙な静けさの中、いまま逮捕は続いている。このような事件は、なぜ、どのように起き、私たちに何をもたらそうとしているのか。関係者らの取材から、三回にわたって検証する。

## 発端は12・12ゼネスト

「それって日本の話なの？」

二〇一八年秋、知人の労組活動家から事件の概要を知らされ、私は思わず聞き返した。

「全日本建設運輸連帯労働組合(略称・連帯ユニオン)」という労組の近畿地区の労組員が、ストライキや労働条件の改善要求を、「威力業務妨害」「恐喝」「強要」などとみなされ、次々に逮捕されているというのだ。

「連帯ユニオン」は、セメント、生コン、砂利などを建設現場に運ぶ運転手やクレーンなど重機のオペレーターが加入する全国規模の労組だ。企業別労組がほとんどの日本社会で

は珍しく、企業にかかわりなく個人でも加入できる産業別労働組合（産別労組）であり、直接雇用の社員だけでなく、日々雇用労働者も含め組織している。

逮捕・起訴の対象となったのは、その中心的組織である「関西地区生コン支部」（略称・関生支部）で、大阪、兵庫、京都、滋賀、奈良、和歌山の近畿二府四県にまたがって、約二〇〇カ所の生コン職場の働き手が加入してきた。

発端は二〇一七年一二月二日の輸送ゼネストだった。このストライキは、関生支部と、船荷の積み下ろし作業などを行う労働者らを組織する労組「全港湾」の大阪支部が協力し、セメント・生コン輸送の運賃の引き上げなどを求めて行われた。近畿全域のセメント出荷基地と生コン工場で、ミキサー車など計一五〇〇台の運行を止めるという、近年にない大規模なものだった。

京都、奈良、和歌山などの経営側は要求をのんだ。だが、大阪の経営側は回答を出さず、「ストライキは威力業務妨害」「関生支部は組織犯罪集団」と労組批判を開始した。最大需要地の大阪で労使が対立した結果、運賃を引き上げる意向を回答していた周辺地域の経営側も実施を見送り、事態は膠着状態になっていた。

このストライキや、他の労働条件の改善交渉にかかわった組合員が、「威力業務妨害」「恐喝」「強要」などの容疑で二府と滋賀、和歌山県の警察署によって相次いで逮捕され始め

たのは、それから半年以上も後の二〇一八年七月からだ。労組によるストライキや団体交渉は、働き手の生活向上へ向けた労働基本権として憲法二八条でも労働組合法でも認められている。だが、逮捕は続き、二〇一九年一二月二〇日現在、逮捕者は延べ八九人、うち七〇人以上が起訴という事件に発展。自宅を搜索されたり、「労組か、仕事か」と迫られたりする労組関係者も相次いでいる。

ミキサー車運転手、村田佐和子（仮名）もその一人だ。村田の自宅のインターホンが突然鳴ったのは、二〇一九年四月の早朝だった。ドアを開けると滋賀県警の警察官たちから捜索令状が示された。村田は、夫も親族も関生支部に所属し、ミキサー車運転手として働いてきた。前年八月、その親族が逮捕された。捜索は、当時すでに保釈されていた親族の事件についてのものと説明された。

ベランダにあるエアコン室外機の下をきぐったその手で、<sup>たんす</sup>箆筒に入った村田の女性用下着もかき回された。「汚れる」とはらはらしたが、見守るしかなかった。自宅にあった労組関係の機関紙や村田夫妻の携帯電話などを押収し、捜索員は引き上げていった。

保釈されていた親族は、この搜索の二カ月後、今度は京都府警に逮捕された。同年一〇月には保釈されたものの、ついに労組を脱退した。